

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
技術科長	小西 康彦
技術科長代理	飯塚 明寿
統括主幹	行 正剛
放射線治療担当主幹	前田 直子
救命救急撮影担当主幹	相良 健司
技術管理担当主査	中平 修司
情報管理担当主査	田原 大世
学術管理担当主査	西池 成章
ひばく管理担当主査	安永 桂介
主 査	長澤 毅
主 査	磯野 仁美
主 査	常玄 大輔
主 査	藤村 一郎
	山本 有佳理
	猪股 美紀
	株崎 律子
	早川 治男
	長谷川 勝俊
	酒井 徳生
	池本 達彦
	増田 慎吾
	伊東 大佑
	武部 優華
	熊谷 明修
	西村 悦子
	東 順也

—概要—

放射線技術科は、以下の事柄に貢献することを目標に日々の業務を行っている。

- ・医療における質の向上
- ・医療における安全担保
- ・患者満足度向上
- ・チーム医療
- ・経営改善
- ・地域社会活動

当院は地域中核病院としての使命がある。我々はあらゆる場面に対応すべく、時間外は2名(救命救急・りんくう側)体制で当直を行っており、それ以上の緊急検査にはオンコールで対応している。より多くの人材と医療機器を常時稼働できるよう研鑽に努めている。さらに、中央部門として多部署との関わりを持つため、各診療科や病棟との連携を強め、それぞれの要望に対応できるように努めている。

学術・学会発表等は日々の業務を行いながらとなるため、対象の個人の努力だけでなく、部門としての支援が必要で

ある。これらは放射線技術科として積極的に推し進めている。今ある環境の中で誰もが最大限の成果と充実感を出せるような体制作りを今後も進めていく。

—実績—

＜装置稼働実績＞

中央放射線部のページに掲載のとおり。

＜施設認定＞

マンモグラフィ検診施設画像認定

＜研修・実習の受け入れ＞

救急撮影認定技師実地研修 11名(診療放射線技師)

清恵会第二医療専門学院 4名(学生)

大阪物療大学 2名(学生)

—今年度の成果と反省点—

2017年度末に救命救急センターのFPD撮影システムが更新となったことで、今後の救命初療撮影における患者被曝線量低減と画質向上が期待される。また、手術室にFPDシステムの術中イメージ装置が追加配置となったことで、より安全に手術ができる体制がとれたと考える。

近年、手術支援(術中NAVI)システムの利用が多くなり、各システムによって求められる画像(撮影方法)などが異なるが、大きな問題もなく対応できたと考える。

反省点として、緊急のカテーテル治療にすみやかに対応できなかった事例があった。従来よりも、より早いタイミングでカテーテル治療を開始する全体目標の中で、撮影依頼が重複し当直技師1名だけでは対応できなかった事例である。このケースは常に起こるわけではないが、時間外勤務帯において、現スタッフ数でどこまでの対応が可能であるかの確認が必要と感じた。

—来年度への抱負—

働き方改革等の流れもあり、当直体制が2交代勤務に移行していくであろう。スタッフの疲弊感に配慮が求められる。

また、診療放射線技師の業務拡大に伴う診療放射線技師法の一部改正に対応した講習会への参加も促していきたい。